

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月1日

事業所名 音楽療育特化型事業所 リズムストーリー西浦

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	音楽療育プログラムを実施するにあたり、必要なスペースを確保	ヒヤリハットの事例をもとに、必要に応じ環境を整える。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	音楽療育プログラムを実施するにあたり必要な人員を配置し	定期的に研修を行い、職員の専門性を高め、より良い支援を目指す
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	音楽療育プログラムを実施するにあたり、構造化された療育室を作成している。	環境整備の観点から、利用者様の状態に合わせて改善する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	毎日清掃、消毒を行っている。	今後も継続して環境を整えられるよう清掃、消毒を行う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	毎朝のミーティングでプログラムや支援について振り返りをして	業務内容の他、プログラムの内容についてもPDCAサイクルの観点から改善していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	今年度より実施している。	いただいたご意見を職員間で共有するとともに改善に向け会議を実施する。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	今年度より実施している。	事業所ホームページにて公表する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	83%	17%	音楽療育の母体となる音の森へ現状の報告、評価をいただくよ	評価に対する業務改善を行う。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に研修を行っている。	研修を持ち回りで担当していくことで、さまざまな内容の理解を深められるようにする。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	標準化されたアセスメントツールを使用しアセスメントを実施している。	アセスメントの内容をもとにアプローチの方法を職員全体で参画する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	標準化されたアセスメントツールを使用しアセスメントを実施し	標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの支援方法を計画する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	家族支援、地域支援の内容を含めた個別の支援計画を作成している。	具体的な達成目標を設定し、見える支援を目指す。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	日々支援計画を確認しながら支援及び記録を行っている。	支援計画の内容をもとに記録を取り、支援計画の内容を意識した支援を心がける。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	ミーティングを通じ職員全員で立案している	現在の利用者様にあった内容をチームで立案し、改善していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	飽きかこないよう定期的に内容を変更している。	日々支援内容を振り返り、職員が共通の認識をもってプログラムを計画する。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	子ども一人ひとりにあった支援計画を作成している。	個別のプログラムだけでなく、子ども同士が関わりを持てるプログラムを計画する。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	100%	0%	毎朝ミーティングで確認している。	支援の内容や、送迎などの業務についてミーティングで確認する。
	18	100%	0%	支援終了後、翌朝に振り返りを行っている。	支援内容を振り返り、よかったところや改善点を共有する。
	19	100%	0%	個別支援計画をもとに支援内容を記録している。	継続して支援計画をもとに記録をとる。
	20	100%	0%	定期的なも荷駄リングの実施と懇談を通じ個別支援計画の見直しの必要性を判断している	日々のミーティングや支援記録をもとに定期的にモニタリングを行う。
関係機関や保護者との連携	21	100%	0%	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	サービス担当者会議で持ち得た情報を職員と共有し、同じ方向を向いた支援を行う。
	22	83%	17%	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	助言があった場合は職員と共有し、統一した支援を計画する。
	23	100%	0%	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	連携できる体制を維持する。
	24	83%	17%	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	連絡できる体制を維持する。
	25	67%	33%	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	日々の支援記録をもとに情報共有できる体制を維持する。
	26	67%	33%	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	日々の支援記録をもとに情報共有できる体制を維持する。
	27	83%	17%	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	助言や研修内容を積極的に支援内容に取り入れる。
	28	33%	67%	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	コロナウイルスの影響を加味しながら検討する。
	29	50%	50%	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	今後参加していけるようホームページをもとに情報を得、検討する。
	30	100%	0%	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	連絡帳や送迎の際に様子を伝えあい、共通の理解を深めるよう取り組む。
	31	67%	33%	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	事業所で行っている支援内容や対応を共有するとともに、ご自宅での様子を伺い適切な助言を行う
32	100%	0%	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	今後ご理解を得られるよう適切な説明を心がける。	
33	100%	0%	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	今後ご理解を得られるよう適切な説明を心がける。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	定期的に懇談を行うほか、電話でも相談を受けられるような体制を整えている	継続してお悩みをご相談いただけるような体制を維持する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	影響を加味しながら検討していきたい	保護者様の意向を考慮し地域支援につながるよう取り組みを検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	電話での相談も受け付け、迅速な対応ができるよう心掛けている。	継続してお悩みをご相談いただけるような体制を維持するとともに、迅速な対応を心がける。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	プログラムの内容を定期的に発信している。	継続してプログラムの内容を発信していくとともに、訓練や研修の内容を発信する。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	契約時に説明し丁寧に取扱っている	定期的に研修を行うことで、丁寧に個人情報を取扱っている
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	音楽を使ったコミュニケーションやイラストやカードを使用	子どもにあった意思の疎通の方法を日頃から模索し、共通の認識が持てるよう図る。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	コロナウイルスの影響を加味しながら検討していきたい	開かれた事業運営を目指し、地域支援につながるような取り組みを検討する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83%	17%	感染症や自然災害を想定した訓練を行っている。	継続して定期的な訓練を行い、様子を保護者様に発信していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に訓練を行うとともに備品の確認をしている。	継続して定期的な訓練を行い、様子を保護者様に発信していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	アセスメントの際に確認し、共有している。	今後も適切な対応ができるよう共通の認識を持つ。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アセスメントの際に確認し、統一した対応を心がけている	今後も適切な対応ができるよう共通の認識を持つ。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	毎日支援を振り返りヒヤリハットを共有している。	ヒヤリハットの事例を共有するとともに改善方法を検討していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	定期的に研修を行っている。	継続して虐待防止に向けて定期的な研修、啓発を行う。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	重要事項に記載し同意を得ている。	法人の決定を遵守し、保護者様の理解を得られるよう適切な説明を行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。